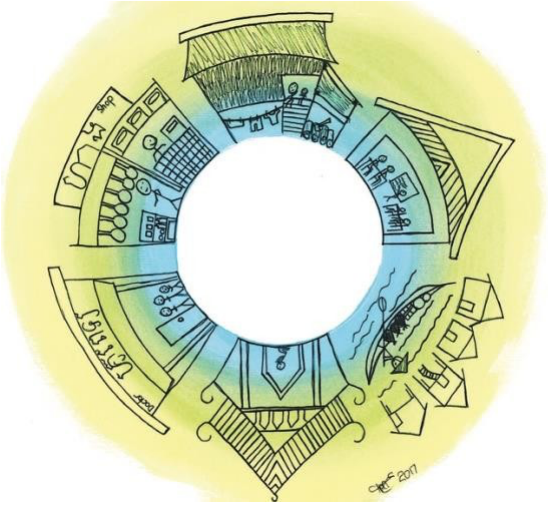
児童虐待に対応するケースワークにおいては、
普通に暮らしていたら当たり前につながる人々から成るネットワークに関わってもらう

「子どもを育てるには、村一つ必要だ」というアフリカの諺は、比較的よく引用されます。そこに見いだされる先人の知恵は、伝統的な文化における子育ての礎となっています。先進国でもよく知られています。子どもの支援機関が、子どもと家族とのつながり、子どものもともとのコミュニティとのつながりを維持するためにあらゆる手を尽くすべきであるという理念は、児童福祉制度が確立されているほぼすべての国の児童虐待に関する法律にも明記されています。自分のことを気にかけてくれる人とたくさんつながっている子どもは、多くの場合、孤立している子どもよりも良い人生を送り、安全に暮らすことができています。



サインズ・オブ・セーフティは、常に子どもたちに自然なつながりがある人を漏れなく取り込もうと努めています。長く続く子どもの安全と傷つきからの回復を最も効果的に実現するためです。よってサインズ・オブ・セーフティの目的は、以下のように表されます。

> *児童虐待にかかわる相談機関が、子どもの安全とウェルビーイングに対する視点から絶対にぶれることのない支援をできるようになること、また、専門家が自分たちの解決策を提案する、押しつける以前に親、子ども、そして子どもと自然につながっているすべての人がアセスメントや計画策定にかかる意思決定の中心となることで、彼らが解決方法を考え、実行していくことができるよう、支援機関が実践の枠組み、指針、手順を確立すること。子どもが家族や親族と一緒に暮らしているか否かにかかわらず、家族とネットワークが子どもに十分に関与することを常に追求し、子どもが生涯にわたって自分の家族、文化、生まれ育った地域社会とのつながりを維持できるように子どもの支援機関が、関わりの初めから終わりまであらゆる取り組みを行う。*

親族、友人、近所の人、また教師やかかりつけ医のような専門家など、子どもと自然につながりを持つありとあらゆる人々にかかわりを持ってもらいましょうという強い想いは、これらの人々こそが子どもに第一義的に関心と責任を持つ人たちだとすれば当然のことです。すべての子どもは、生まれ育った家族や地元とつながっているべきです。しかしながら社会的養護の元で暮らすとても多くの子どもたちにとっては、専門的な制度によってそれまでの家族や生まれ育った地域社会とのつながりが途切れる、あるいは失うことになっています。

わかり切ったことであるにもかかわらず、子どもに自然につながっている人々に関わってもらうことは、児童虐待に関わる専門相談機関にとって大きなパラダイム・シフト、文化のシフトです。

© 2020 Elia International Ltd *Involving naturally occurring safety networks in child protection casework*

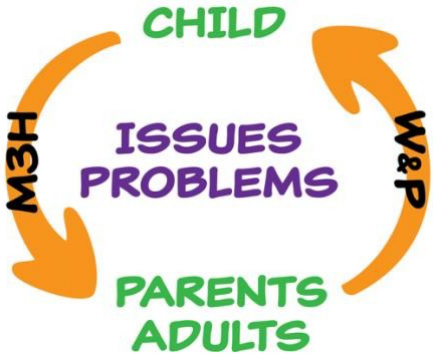
そこにはたくさんの壁が立ちはだかります。子どもの支援機関は、専門家を家族にかかわらせるように考える傾向があります。普通に暮らしていたら当たり前につながっているネットワークが家族に関わってもらうよりも、その方がより問題が少なく、形にしやすいと認識されているのが理由です。

サインズ・オブ・セーフティでは、子どもとその家族の周りに訳を知り、納得した上でかかわる自然なつながりの人々に参画してもらうことこそが、専門家の関わりを最小限に抑えつつ、毎日の生活のなかで効果的なセーフティ・プランを作る際の鍵を握っていると考えています。なぜならこのネットワークの人たちこそが、子どもと家族の日常生活の内側の大事なことを知っているからです。

児童精神科医のティルマン・ファニスは「児童虐待は『秘密』という名の症候群である」と、ずばり述べています。継続的な子どもの養育と安全に対する結果を出すという責任を果たすのであれば、セーフティ・ネットワークのすべてのメンバーが、そもそも子どもの支援機関がこの家庭にかかわることになった懸念について十分に知らされていることなしでは済まされません。

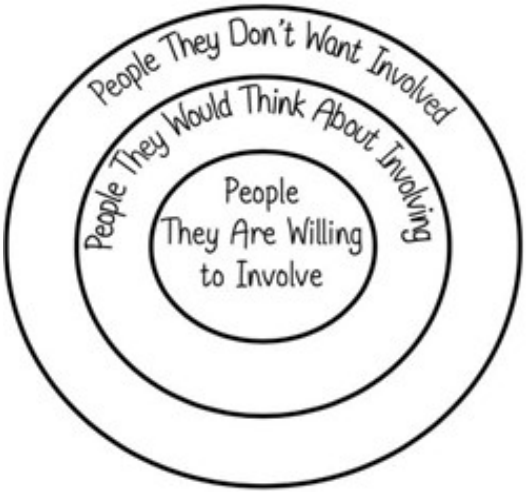
サインズ・オブ・セーフティ・アプローチでは、問題をオープンに話し合う、また児童虐待の状況を取り巻く典型的な「恥」と「秘密」を解くためにさまざまな方法を用いています。

- 平易な言葉でリスク・アセスメントを行うサインズ・オブ・セーフティ・マッピング
- 子どもと実施するマイ・スリー・ハウス：M3H（家族、セーフティ・ネットワークにまつわる子どもの経験）
- ワーズ＆ピクチャーズ：W＆P（親が子どもの支援機関と一緒に準備を行い、不適切な養育について親から子どもに説明をする）



サインズ・オブ・セーフティ・アプローチでは、子どもの今の家族の生活のなかに自然に派生していたセーフティ・ネットワークを見つける過程、ネットワークを築いていく過程でさまざまな方法を用いています。

- ファミリー・セーフティ・サークル
- ネットワーク・ファインディング・マトリクス
- ジェノグラムとエコマップ
- ファミリー・ファインディングから援用するさまざまな方法

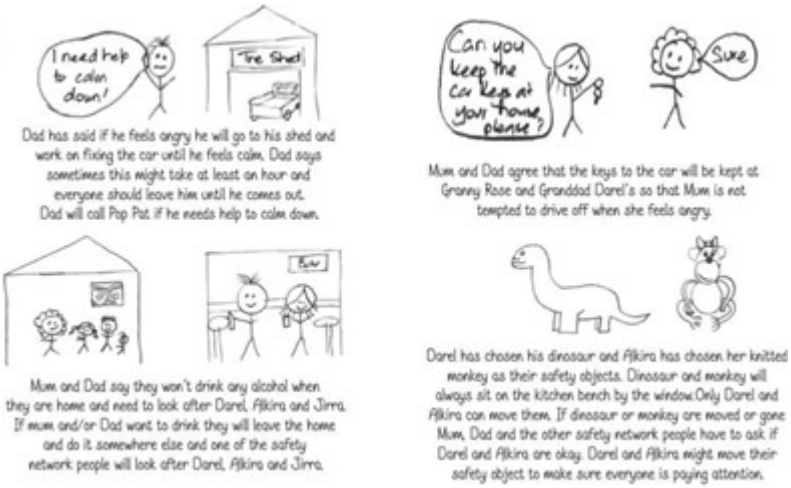


ファミリー・セーフティ・サークル[1]

サインズ・オブ・セーフティでは、子どもと原家族の周りに訳を知らされた上で納得してかかわる自然なつながりの人々が参画していることこそが、毎日の生活のなかで有効に働くセーフティ・プランを作る鍵を握っていると考えます。セーフティ・プランには、仮に問題が起き、危険が迫ってきたとしても子どもが安全でいること、十分に面倒を見てもらえていることを確実にするために誰が何をするかという詳細が記されています。

サインズ・オブ・セーフティでは、今の家族や拡大家族、普通に暮らしていたら当たり前につながっているセーフティ・ネットワークの人と一緒に長続きする、また家族が自分たちのものにできた詳細なセーフティ・プランを作る過程においてさまざまな方法を用いています。

- セーフティ・プランニング準備ワークシート
- セーフティ・ジャーナル
- 子どものセーフティ・オブジェクト
- 子どもの年齢に応じてわかるように著したワーズ＆ピクチャーズ版のセーフティ・プラン



子どもの年齢に応じてわかるように著したワーズ＆ピクチャーズ版のセーフティ・プラン

[1] 円の内側から外に向けて「かかわる気持ちがある人」「かかわることをこれから考えてくれる人」「かかわりたくないと思っている人」

発展的学習のための文献：

Koziolek, D. (2020). Family finding tools. Available at: https://www.safetyplanning.org/index.php/en-us/2-knowing/135-family-finding-tools

Turnell, A. (2013). *Safety planning workbook.* Elia International, Perth. Available at: https://knowledgebank.signsofsafety.net

Turnell, A. and Essex, S. (2006). 'Creating an informed safety network around the family', Chapter Seven: pp 104-110, in *Working with 'denied' child abuse: the resolutions approach.* Buckingham: Open University Press.

Turnell, A. and Essex, S. (2013). It takes a village: placing grandparents and extended family at the centre of safeguarding vulnerable children, in David Pitcher (ed.) *Inside kinship care: understanding family dynamics and providing effective support*, London: Jessica Kingsley.

Koziolek, D. (2020). Family finding tools.
https://www.safetyplanning.org/index.php/en-us/2-knowing/135-family-finding-tools

Turnell, A. (2013). *Safety planning workbook.* Elia International, Perth.で入手可能
https://knowledgebank.signsofsafety.net

Turnell, A. and Essex, S. (2006).Creating an informed safety network around the family, Chapter Seven: pp 104-110, in *Working with 'denied' child abuse: the resolutions approach.* Buckingham: Open University Press.

Turnell, A. and Essex, S. (2013).It takes a village: placing grandparents and extended family at the center of safeguarding vulnerable children, in David Pitcher (ed.) *Inside kinship care: understanding family dynamics and providing effective support*, London:Jessica Kingsley.